

企業行動研究部会 例会議事録 (No.329 回)

日時：2024 年 2 月 19 日

場所：リモートによる出席 (12 名)

出席者： 記載 略



1. 事務局連絡

1-1 クライスマネジメント研究部会の発足

2024 年 2 月 17 日 (土) に発足イベント、会場とオンラインで計 100 名ほどが参加し開催された。

1-2 水谷雅一賞

賞 (学会賞) はこれまでは学会誌に掲載の全ての論文を対象に査読審査がなされてきたが、4 回目となる今回からは推薦 (自薦含む) があつた論文のみを対象に査読審査を行うこととなった。

2. 研究テーマ発表

◎テーマ： 明治に挑んだ女性 平塚部員

本学会の CSR 研究部会では 2013 年以来 6 冊の書籍を出版してきたが、本年 6 月に 7 冊目『激変社会を生き抜く女性経営者 広岡浅子に学ぶ』の上梓予定。これに関連して幕末から明治に生きた 3 人の女性 (広岡浅子、津田梅子、大山捨松) について述べられた。

要 約

広岡浅子は、明治維新の前に生まれ、豪商出水三井家の娘として育つた。若くして結婚し、夫の事業や炭鉱事業に参画し、さらには大同生命の創業にも貢献した。しかし、その功績にもかかわらず、当時の男女不平等により、社長にはなれなかった。津田梅子は、日本における女子教育の先駆者として評価されている。彼女はアメリカ留学を経て、女子英学塾を創立し、女性の教育機会の向上に尽力した。また、日本婦人米国奨学金制度を設立し、多くの日本女性の留学を支援した。大山捨松 (山川咲子) は、会津藩家老の娘として生まれ、アメリカ留学後に日本に帰国した。彼女は鹿鳴館の華として活躍し、日本初の看護学校を創設するなど、社会福祉に貢献した。また、津田梅子の女子英学塾の設立にも大きな役割を果たした。

これらの女性たちは、時代の制約や男女不平等にもかかわらず、教育や社会福祉の分野で大きな功績を残し、後世に影響を与えた偉大な先駆者である。

これを踏まえて、平塚部員から以下の教訓と提言が示された。教訓として、時代の先駆者であることが重要であり、広岡浅子、津田梅子、山川捨松のような女性たちの生涯から、(今日 SDGs でも掲げられている) ジェンダー平等の実現に向けた心意気や使命感が伝わってくる。彼女らは、信念を貫く明るさと強さを持ち、キリスト教の影響を受けて国際感性を持ち、利他の精神を持ち、男性目線からの「女性のあるべき姿」を打破し、女性活躍と男女共同参画社会を実現した。政治分野でのジェンダーギャップが依然として大きく、女性の参画が十分ではない日本において、女性活躍分野におけるクォータ制の導入が求められると提言があった。

◎質問 意見交換 (抜粋)

- ・企業行動部会として 10 年ほど前に安倍政権関係者にクォータ制を提言した捨松に影響を与えたのが八重さんであることから NHK 大河ドラマ「八重の桜」も挙げて欲しい。

- ・渡辺京二著『逝きし日の面影』(幕末から明治期の異邦人の訪日記)を読むと 3 人が特別の女性ではないと感じさせる。

- ・女性が活躍できる分野での女性クォータといった考え方は時代に合わないかもしれない。男性が多かった(大型トラック運転手など体力を要していた)分野でも現在は技術革新(パワステなど)で女性でも出来るようになってきている。

- ・「女性活躍」の定義が気になる。巣を守ることにやり甲斐を感じるとか社会的成功を収めることに幸せを感じるか、それぞれの幸福観によって異なる。

- ・(梅子や捨松が行った)女子留学制度はその後どうなったのか?なぜ続く人が出なかったかの理由を分析することにも意義がある。

- ・他、活発な意見交換が行われた。